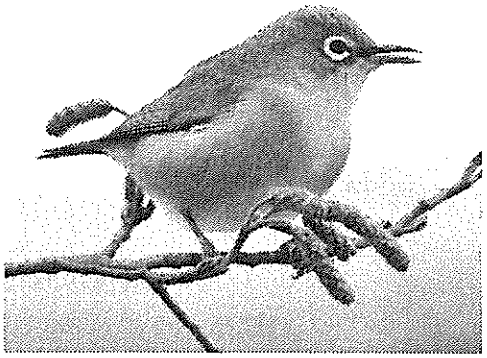
姫路科学館友の会 Since 1993
あとむ
姫路科学館友の会会報　第 171 号〈2021 年 3 月〉(友の会事務局発行)

もうすぐ春



先日、科学館の事務所裏で、メジロがミカンを食べているところを見ました。ひとつつきしてはキョロキョロ、また、ひとつつきという様子を見て、思わず「かわいい」と思いました。季節は確実に春に近づいています。

さて、2021 年度の友の会会員募集が始まりました。コロナ禍で、臨時休館やイベントの中止等が予測されます。また、友の会の事業も未定です。しかし、会員募集は例年通りに行いますので、来年度も入会していただきますようお願いいたします。

(友の会会長　上田倫範)

館長の科学館だより

【キツツキのなかまコゲラ】

木々の葉が落ちて見通しが良くなった姫路城周辺を休みの日に歩いていると「コツコツコツ」と何かを叩くような音が聞こえてくることがあります。周囲を見回してみると縞々模様の背中を見せて忙しげに木々の周りを一心に口ばしでつついているコゲラを見かけることがあります。これは、木の表皮に隠れている虫を探して食べているのです。全長 15cm ほどの大きさで日本にいるキツツキの仲間では最小です。エサを探して夢中になっているときは、カメラを構えて２～３メートルくらいまで近づいても一向に気にすることなく？(おそらく、夢中になりすぎて気が付かないのかも知れません)撮影のモデルをしてくれることが多いです。そんな時は、あとでビックリするくらいシャッターを切ってしまっています。デジタルカメラだといくらでも映像を消去することができるためなのですが、フイルムカメラだとプリントしてきっと後悔しかないと思います。

木をつつくから「キツツキ」と呼ばれるこの種は、世界で 200 種類以上が知られていて異性へのアピールのために超高速で木をつつくものは、1 秒あたり 18～22 回もつつき、実に一日あたり 1 万 2000 回にもなるそうです。ここで気になるのは、それだけつついても脳が大丈夫なのだろうか？ということです。いくつか大事に至らない要因があるのですが、大きな要因として脳が頭